

BMI が低い透析患者は、長期的な心機能低下を起しにくい

桜町クリニック時津¹⁾，桜町病院²⁾，桜町クリニック³⁾

○橋口 純一郎¹⁾，島峯 良輔²⁾，李 嘉明²⁾，原田 孝司²⁾，船越 哲³⁾

【目的】

DOPPS の調査では、透析患者は BMI 値が高いほうが、死亡リスクが少ないとされる。一方、非透析患者でも心不全患者は BMI が高いほうが予後良好との研究がある (COPERNICUS 試験)。今回、長期生存の透析患者において、BMI と心機能の関連を調べる

【対象】

当院関連施設で 5 年前から継続して血液透析治療を受けている 94 名 (男 51 女 43)

【方法】

痩せ型の多いわが国の透析患者は、平均 BMI が約 20Kg/m² である。BMI が 20 未満 (痩せ型群 27 名) と 20 以上 (非痩せ型群 67 名) の 2 群に分類し、5 年間の心機能変化を観察した。

【結果】

痩せ型群の平均 EF は 5 年間で 0.688 から 0.707 ($p=0.17$) と変化なかった。一方、非痩せ型群は 0.651 から 0.627 ($p<0.05$) と有意な減少を示した。また BMI では痩せ型群も非痩せ型群にも有意な変化は認められなかった。

【結論】

栄養障害等で BMI が変化しない場合は、むしろ BMI の低い痩せ型透析患者が、経年的な心機能低下を起しにくい可能性が示唆された。